



金融というライフラインと経済の実像

令和6年7月27日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

資本は資本を生み。経済を創造する。これが世界経済の仕組みである。金融というライフラインが、これを行うものである。

これらは国家の隆盛が、資本の移動とともに存在した過去において証明されるものである。

資本主義経済において資本はそれを所有し、経済の実像を行うものである。

これらは国際金融資本という経済の背後の現実への正しい考察なのである。

これらは今日の新しい経済システムがさらなるデジタル経済へ移行することとともに、正しい経済への理解基盤として求められる。

資本という現実の世界の所有とともに、その決定さえ有するのである。これは政治における資本という現実への必要性を表すものである。

これら通貨運営と金融センターの整備における経済の育成への正しい理解なのである。

これら世界の金融はその資本力において、その特定したプレゼンスを圧倒的に有するのである。

これらは資本主義が資本において所有されているという皮肉なのである。

これらは先端産業の囲い込みにおける経済安全保障などとは違い自国経済の保護を求めるとき、その経済の安全保障の確立を要求されるという真実なのである。

通貨の切り上げ下げにおける金融資本の恐喝や、アベノミクスにおける国内経済の安売りなど、それら現実が経済の実像を形成することは真実である。

しかし正しい為政における経済政策の作成は、経済の健全性の回復を実現できるとも真実である。